

復活節第6主日

<p>朝第1礼拝 9:00~10:10 朝第2礼拝 10:30~12:00</p> <p>〈神の招き〉 前 奏 ①キリストよ、み顔を我らにむけたまえ バッハ ②天にましますわれらの父よ ベーム</p> <p>招きの詞 エゼキエル書36:26~27 交読詩編 8:1~10 讃美歌 17</p> <p>〈神の言葉〉 聖書 イザヤ書29:13~14 (旧約 新共同訳 1105頁) マルコによる福音書7:1~23 (新約 新共同訳 74頁)</p> <p>祈 禱 讃美歌① 51 奉 唱② I-242 説 教 「清さと汚れ」 熊江秀一牧師 祈 禱 黙 想 讃美歌 436 聖 餐 讃美歌 81</p> <p>〈神への応答〉 信 仰 告 白 日本基督教団信仰告白 献 金 主 の 祈 り 宣 教 報 告② 頌 栄 27 派 遣 と 祝 福 後 奏 ①天にまします我らの父よ バッハ ②我らに救いは来たりぬ バッハ</p> <p>宣 教 報 告①</p>	<p>夕 礼 拝 18:00~19:10</p> <p>〈神の招き〉 前 奏 義しき神 恵みの泉 バッハ 招きの詞 エゼキエル書36:26~27 交読詩編 8:1~10 讃美歌 216</p> <p>〈神の言葉〉 聖書 出エジプト記33:7~11 (旧約 新共同訳 149頁) ヨハネによる福音書16:25~33 (新約 新共同訳 201頁)</p> <p>祈 禱 讃美歌 561 説 教 「平和を得るために」 甲賀正彦伝道師 祈 禱 黙 想 讃美歌 90 聖 餐 司式 熊江秀一牧師 讃美歌 81</p> <p>〈神への応答〉 信 仰 告 白 日本基督教団信仰告白 献 金 主 の 祈 り 宣 教 報 告 頌 栄 27 派 遣 と 祝 福 後 奏 義しき神 恵みの泉 バッハ</p> <p>今週の御言葉 (マルコによる福音書7:14~15) それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた。 「皆、わたしの言うことを聞いて悟りなさい。外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである。」</p>
---	---

次週の礼拝(5月12日)

<p>① 9:00、② 10:30 説教「わたしのいる所」甲賀正彦伝道師 列王記下2:6~15、ヨハネによる福音書7:32~39 交読詩編46:1~12 讃美歌204、336、111、27</p>	<p>☑ 18:00 説教 「キリストがあがめられるように」熊江秀一牧師 詩編46:2~12、フィリピの信徒への手紙 1:12~26 交読詩編46:1~12 讃美歌16、51、518、27</p>
--	--

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、☑は夕礼拝。

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に 2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 地域会の為に 4. 母の日の為に 5. 牧師・伝道師の為に
6. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に 7. 病気の兄姉の為に

***関東教区お祈りカレンダー** 聖学院みどり幼稚園 アジア学院 東京聖書学校

◇先週の説教より 「湖上を歩く主」マルコによる福音書6:45~56、出エジプト記3:13~15 熊江秀一牧師

5千人の食事の後、主イエスは弟子たちだけを舟に乗せ、湖の向こう岸に行かせた。しかし湖上は逆風となり、弟子は暗闇の中、試練に直面する。この船旅は主の命令による「強いて」出発した旅だった。そのただ中で試練に直面した。この姿は教会や私たちの姿である。教会の旅も、信仰の人生も、主に従って旅をするただ中で、誘惑の嵐、試練の嵐という逆風が吹き荒れることがある。その時、私たちの信仰が問われる。

この時、主は山で祈っておられた。そしてすべてを見、自ら降って来て下さった。「そばを通り過ぎようとした」は、主を正面から見るができない弟子たちに、主自らがお自分をお示しになる姿である。

しかし弟子たちはそのことが理解できなかった。湖上を歩く主を見て「幽霊だと思い、大声で叫んだ」。主は試練の時、私たちのもとに来て下さる。しかし私たちはそれ

に気づかず、悲鳴をあげてしまう。

しかしそれでも主は弟子たちを見捨てない。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」とご自分をお示しになる。「安心しなさい」は平安を与え、「しっかりするのだ」(口語訳)と信仰を奮い立たせる言葉である。「わたしだ」(エゴ・エイミ)は旧約以来、神の名を意味する。そして「イエスが舟に乗り込まれると、風は静まり」嵐はおさまった

主を見失い、恐れと不安にあった弟子たちは、神の力を示され、主を舟にお迎えした時、嵐はおさまり旅を続けることができた。主は、私たちのことをいつも見、祈り、降って来て、御言葉によって主が今も生きて働く神であることをお示しになる。主をお迎えした舟は、嵐に見舞われても平安の内に旅を続けることができる。主の御言葉をいただき、主と共に歩んで行こう。